

弁天湯

Bentenyu
(東京都台東区)



外観

今回紹介する銭湯は、台東区の弁天湯である。浅草線、総武線・浅草橋駅から徒歩からの場所にある。弁天湯の入口は上の写真のようにのぼりがないと全く目立たない。のぼりの後ろには屋号の由来にもなっている弁天様が鎮座している。弁天とは七福神の一つであり、別名を弁財天。その名の通り財をもたらす神であり、七福神の中では紅一点、女性の姿をした神である。

弁天湯は一見すると平凡な銭湯だ。そして、通常の銭湯に比べると少々狭い。洗い場は21箇所、すべてにシャワーヘッドが具備されている。シャワーブースも1か所ある。浴槽は浅風呂が2槽。片方が気泡湯で温度計が湯温 42℃を示しているが、表示温度以上に熱い。サウナ、マッサージ風呂、電気風呂、露天風呂、水風呂、ペンキ画、タイル画はなし。確かに平凡な銭湯だ。

しかしよく見てみると、この銭湯は「変身する」銭湯であることに気づく。

まずはロッカー。すべてのロッカーにキャスターが付いているのだ。つまり、ロッカーは容易に移動できる構造となっている。また、脱衣室はすべてガラス張り。カーテンがしであるのでロビーから脱衣室内は見えないが、男湯の脱衣室と女湯の脱衣室を隔てる隔壁すらもガラス張りの扉だ。カーテンを移動させれば、脱衣室同士がつながってしまう構造になっている。さらに、浴室入口上部にはカーテンが設置できるようにカーテンレールがある。脱衣室入口の目隠し壁も容易に取り外せるようになっているではないか。

これらの設備を駆使すれば、銭湯の内部はガラッと変身することになるであろう。しかし、いったい何のために……。

考えても分からないのでフロントのご主人に聞いてみた。ご主人によれば、この銭湯は足の不自由な人向けの浴場としても使われているのだという。つまり、通常の銭湯としての営業時間外に、別の形態で営業をしているわけである。確かにロッカー等を取り除けば、車椅子でも楽々と脱衣室内を移動できるであろう。また、目隠し壁やカーテンを取り除いてロビーやフロントから脱衣室内を丸見えにすることで、事故が起こった際も迅速に対応できるようになる。よく考えられた銭湯である。これからの高齢化社会で必要とされる浴場とは、まさにこういうものなのであろう。

弁天湯は、先進的な高齢化社会対応型浴場であった。あっぱれである。

- **名称**：弁天湯
- **所在地**：東京都台東区浅草橋 1-33-6
- **電話**：03-3864-7100
- **営業時間**：15：30～23：30
- **定休日**：第2、第4月曜日、1月1日
- **入浴料**：大人 450 円、中人（6 歳以上 12 歳未満）180 円、小人（6 歳未満）80 円
- **サウナ**：なし
- **サウナ内のテレビ**：なし
- **取材日**：2013 年 5 月 10 日（金）
- **取材**：銭湯愛好会・東京支部